



荻川小だより



〒956-0011 新潟市秋葉区車場 922-1
電話：0250-25-2171 FAX：0250-25-2172
<http://www.ogikawa.city-niigata.ed.jp/>



令和8年10月9日発行

「やらないきゃ」を「やりたい」に

校長 飯田 厚

私たちは、日々やらなければならないことに追われています。それは、子どもたちにとっても同様です。宿題、係や委員会の仕事、習い事でも「やらないきゃ」と追われていることが多々あります。では、どうしたら「やらないきゃ」を「やりたい」に変えることができるのでしょうか。そのヒントは「わくわくする目標をもつこと」にありそうです。

以前全校朝会で、大谷翔平選手の目標達成シートを紹介しました。大谷選手は「ドラフト1位で8球団から指名される」という大きな目標を掲げ、そのために必要なことを細かく考えました。「練習しなければならない」と考えるだけなら、つらく感じるかもしれません。でも、「こんな選手になりたい」「試合で活躍したい」という未来を思い描けば、そのための練習も「やってみたいこと」へと変わっていきます。

これは、学校生活でも同じです。「漢字を覚えなきゃ」でなく、「本をすらすら読めるようになりたい」。「掃除をしなきゃ」でなく、「みんなが気持ちよく過ごせる教室にしたい」。などです。もちろん、何でもすぐに「やりたい」と思えるわけではありません。それでも、「何のためにやるのか」「できるようになったら、どんな自分になれるのか」を考えることで、同じことでも見え方は変わります。

「やらないきゃいけない」から「こうなりたいからやってみる」へ。その小さな気持ちの変化が、毎日の行動を変えていきます。

荻川小学校では、学校教育ビジョンで育てたい資質・能力に自己調整力を掲げています。

○自分の感情や行動を正しくコントロールし、健康を保持する力

○目標を決め、見通しをもって粘り強く取り組む力

子どもたちが、やらなければならないことの先にある「なりたい自分」を思い描き、わくわくする目標をもって一歩を踏み出せるように、学校でも一緒に考えていきたいと思います。

さて、前期101日が終わろうとしています。地域、保護者の皆様には前期のご支援、ご協力をありがとうございました。後期もよろしくお願いいたします。

追伸

先日、「交通安全教育の推進と交通事故防止」の取組に対し、秋葉区交通安全協会、秋葉警察署から表彰状をいただきました。日頃から、セーフティスタッフの皆様をはじめ、地域、保護者の皆様から、横断歩道や危険箇所での見守りをしていただいているおかげです。毎日の見守りに改めて感謝申し上げ、ご紹介させていただきます。

前期の進捗状況について

教務主任 角田 秀和

本年度、荻川小学校では、学校教育ビジョンに掲げる 3 つの柱をもとに努力事項を設定し、教育活動に取り組んでいます。今回は、7 月に実施した児童アンケートと、保護者の皆様にご協力いただいたアンケートの結果から、前期の重点項目における取組の成果と課題、今後の改善についてお伝えします。自由記述欄にも、たくさんの温かいお言葉や貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございました。いただいたご意見を今後の教育活動や学校運営に生かしてまいります。

授業づくり部「対話的な学びと個別最適な学びの一体的な充実を通して、考えを深める子どもの育成を目指す。」

	質問の内容	肯定的評価
児童	友達と話し合いながら、課題を解決することが好きである。	87.6%
児童	友達同士で話し合ったり、自分自身で考えたりする活動によって、「学ぶことが楽しい」「もっと考えたい」などと感じることがある。	92.0%
児童	だれと、どのように学ぶかを自分で決める学び方は好きである。	86.8%
保護者	お子さんは、学校で学んだことを話したり、生活に生かしたりしている。	91.0%

＜後期に向けて＞

友達と話し合ったり、自分で考えたりする活動を通して、「学ぶことが楽しい」「もっと考えたい」と感じる児童が、昨年度より 5 ポイント増加しました。また、「学校で学んだことを話したり、生活に生かしたりしている」という保護者の評価も 8 ポイント上昇しました。校内研修を通した授業実践の積み重ねが成果として表れています。今後も、児童が学習課題や内容、方法を自己選択、自己決定できる授業づくりを進め、学びを自分の生活につなげる力を育んでいきます。

生徒指導・教育相談部

「他者とのかかわり、折り合いをつけながら生活し、なりたい自分に向かって努力する子どもを育てる。」

	質問の内容	肯定的評価
児童	自分も友達も気持ちよくかかわれるように努力することができた。	93.8%
保護者	お子さんは、学校で友達とかかわることを楽しみにしている。	96.2%

＜後期に向けて＞

友達とのかかわりについて、児童・保護者ともに高い肯定的評価となりました。児童は、自分だけでなく周りの人も気持ちよく過ごせるよう、自分のかかわり方や過ごし方を考えることができるようになってきています。また、保護者の皆様からも、学校での適切な人とのかかわりについて高く評価していただきました。今後もこの評価を維持・向上させるため、ソーシャルスキルトレーニングや構成的エンカウンターなどを学級で取り入れ、人とのかかわり方や自分の気持ち、考えの表現の仕方を学ぶ機会を充実させていきます。

特別支援教育部「だれもが、安心して過ごせる環境をつくる」

～3つの「間」の保障…「空間」「時間」「人間関係」～

	質問の内容	肯定的評価
児童	先生や友達と一緒に過ごす教室は、自分にとって安心できる場所だ。	99.0%
保護者	担任や教職員との面談が、家庭と学校が連携していく意識につながっている。	96.7%

＜後期に向けて＞

職員が児童一人一人と自信をもってかかわり、信頼関係を築くことで、教室や学校が安心して過ごせる場となっていることが分かりました。また、保護者の皆様からも、安心して子どもを通わせることのできる学校として受け止めていただいていることがうかがえます。一方で、少数ではありますが、不安を感じている児童もいることから、一人一人の思いに寄り添った支援やケアを大切にしていける必要があります。今後も、誰もが安心して過ごせる環境づくりを進めていきます。